



12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

○ 活動日

自然に触れてほしい、体験してほしい空間が、高山の棚田になれば…と願っての企画(活動)。高山は静かな冬に入っています。棚田を通して袖すれ合い、土と付き合いを楽しんで二年、何もかもがうまくいくとはかぎらなかったが、恐れず様々なものにチャレンジしてきました。協力隊の活動に冬ごもりはない。

「ごぼう」を手にパンサイ

平成23年(2011年)12月13日 火曜日 産経新聞 4頁

「高山ゴボウ」土にまみれ収穫

収穫したゴボウやヤーコンを手に大喜びの参加者たち。産経新聞高山

「なにわの伝統野菜」に指定されている豊能町特産「高山ゴボウ」の収穫を体験するイベントが11日、同町高山の棚田で開かれ、参加者たちが土にまみれながらゴボウ掘りに汗を流した。棚田の再生や景観保全に取り組むグループ「里のふるさと協働隊」(向井邦男隊長)と町の主催。隊員たちが今年9月下旬、広さ約50平方メートルの休耕田を深く耕してゴボウの種をまき、成長を待っていた。

イベントには、町内の新築住宅地に住む家族連れやシニア世代らが参加。スコップやツルハシなどで畑を掘り起こし、1時間半ほどで100kgを超えるゴボウを収穫した。また、健康野菜のヤーコンも掘り出した。

高山ゴボウは長いもので50〜60cmあり、掘っている途中で折れるなど難関苦闘の作業。それでも「折りがよくておいしい」と評判のゴボウと、ヤーコンもかみかみとして渡され、参加者たちは満足顔だった。

ニュースは 社会部大阪総局 TEL:06(6633)9734 FAX:06(6633)9738

12月11日(日) 真剣勝負で向き合った…90分。この土地・風土でしか味わえない美味「高山ごぼう」。土に触れ手も足も服も土だらけ、『泥んこ、気持ちいい!』『十分満足です』と言う声も。タネを戴いた地元自治会会長さんも応援に駆けつけて戴く。タコのようなゴボウに棚田は大爆笑。めったに口に出来ない「ごぼう茶・ごぼうの和菓子」も試飲食は記憶に残る味でした。体験は至福のひとつ。

当日は大阪府北部農と緑の総合事務所から体験の様子を視察、また新聞社の取材を受ける。これからも高山の遊休地を利用しての伝統野菜の栽培と、土に触れる体験を…と願っています。(体験参加者45名)。



高山ごぼうをゲット 「安全・栄養・美味」の三拍子



ヤーコン掘り デュッケイ芋がいっぱい顔を出す。初めての体験です。

棚田から「なにわの伝統野菜高山ゴボウ」の発信を!



人に優しい、環境に優しい無農薬栽培に徹して育てた自慢の白菜です。

私に任せなさい。そば打ちの腕はプロ級…



ヒマワリ油



「右近の郷」で懇親会

12月25日(日) クリスマス寒波襲来。ちょっとだけ活動をして懇親会。…ペコペコになったお腹はグー、ワクワクドキドキ棚田で育てた野菜の幸がてんこ盛り「棚田鍋!」、一口くちにする「うまい!」苦労の味が湧き出てくる。グルメ・飽食時代、人にとって食は欠かせぬもの、贅沢すぎる食を考へ、豊饒の大地の有効利用術、準農家をめざして等々に華が咲く。ひまわり油を使ってゴボウ・ヤーコン・人参等の具材でかき揚げてんぶら、ぜんざい等は一味も二味も違います。(19人参加)

【一年を振り返って】本活動も、開始して2年目を終えようとしています。開拓時の圧倒されそうなススキと笹藪から、開拓も進み、36a10枚の棚田の6枚目まで鍬を入れることが出来ました。来年には8~9枚目まで期待できそうです。この間、隊員数は倍近い30名と増えたことは心強い限りです。本年初めてトライしたヒマワリの栽培は町報の表紙を飾り、産経新聞にも紹介され隊員のモチベーションを高める大きなきっかけになりました。また、地元のご厚意で頂いた高山ゴボウの種の栽培を試み、つい先日のごぼう掘体験は盛会裏に終えることができ、これも産経新聞の紙面を飾り、これらは、地域の活性化になにかの寄与を出来たものとおもっています。(隊長記)